

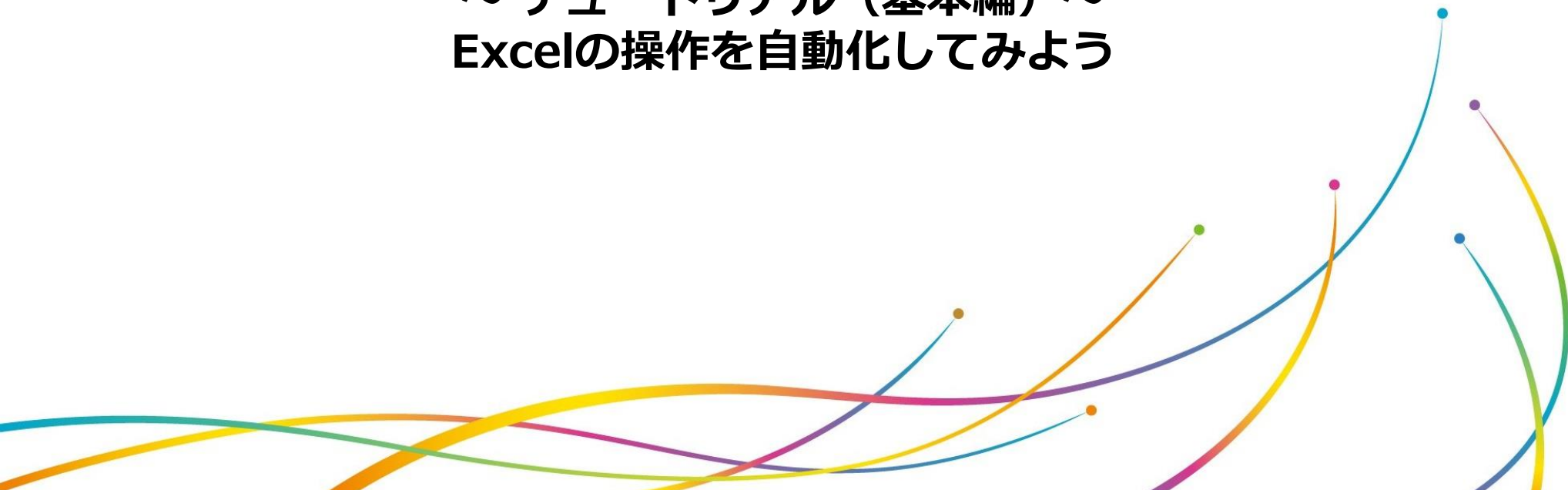


ミノロボ

RPA **MinoRobo®**

Robotic Process Automation

～ チュートリアル（基本編）～
Excelの操作を自動化してみよう



目次

本チュートリアルの目的	… P. 3
1. 事前準備	… P. 5
2. Excelの操作を自動化してみよう	
・Excelブックを開く	… P. 9
・セルに値を入力する	… P. 11
・セルの値を取得する	… P. 13
・セルの範囲コピー／ペーストをする	… P. 17
・Excelブックに名前を付けて保存する	… P. 27

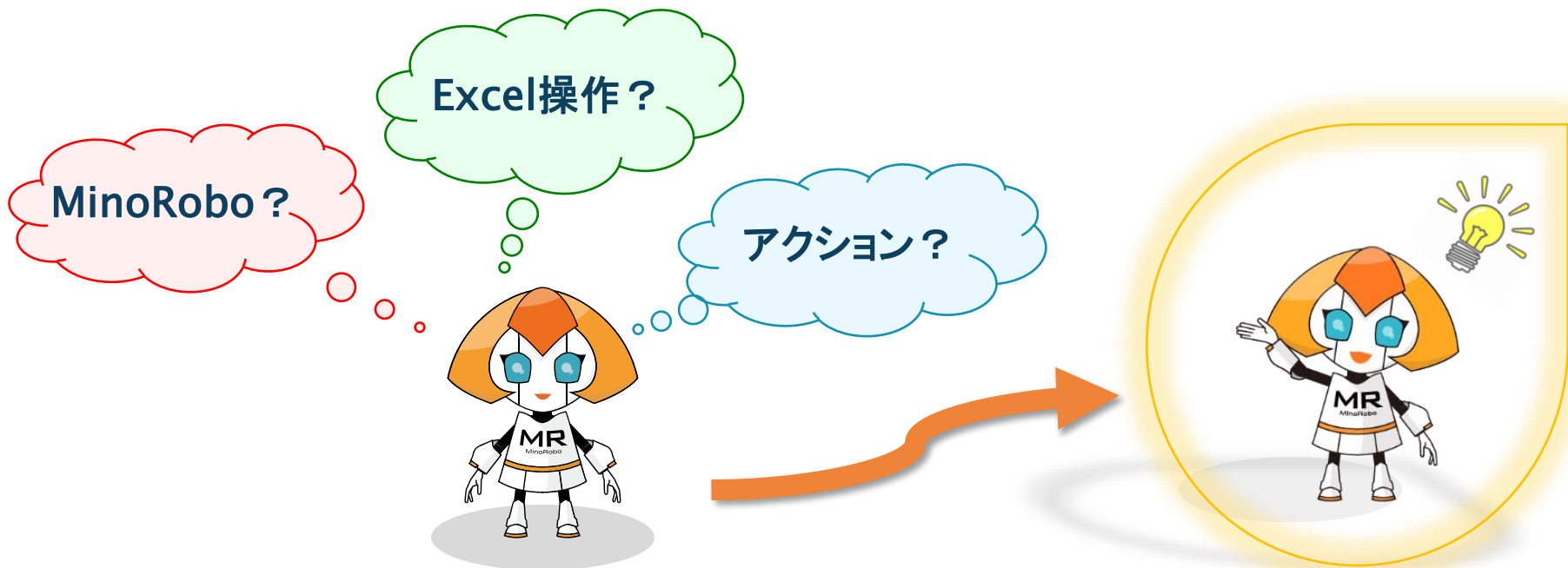


RPA MinoRobo®

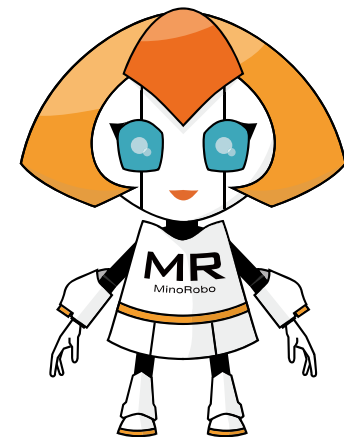
◎ 本チュートリアルの目的

本チュートリアルでは、MinoRoboにおけるExcelの基本操作の一部を体験します。

本チュートリアルを終えることで、Excel操作の基本的な考え方を理解し、今後のシナリオ作成が円滑に進められるようになることを目的としています。



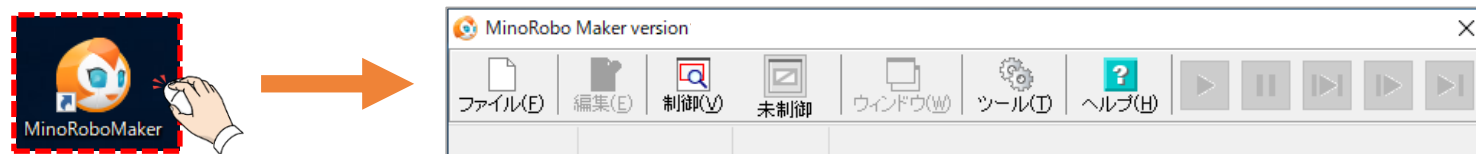
1. 事前準備



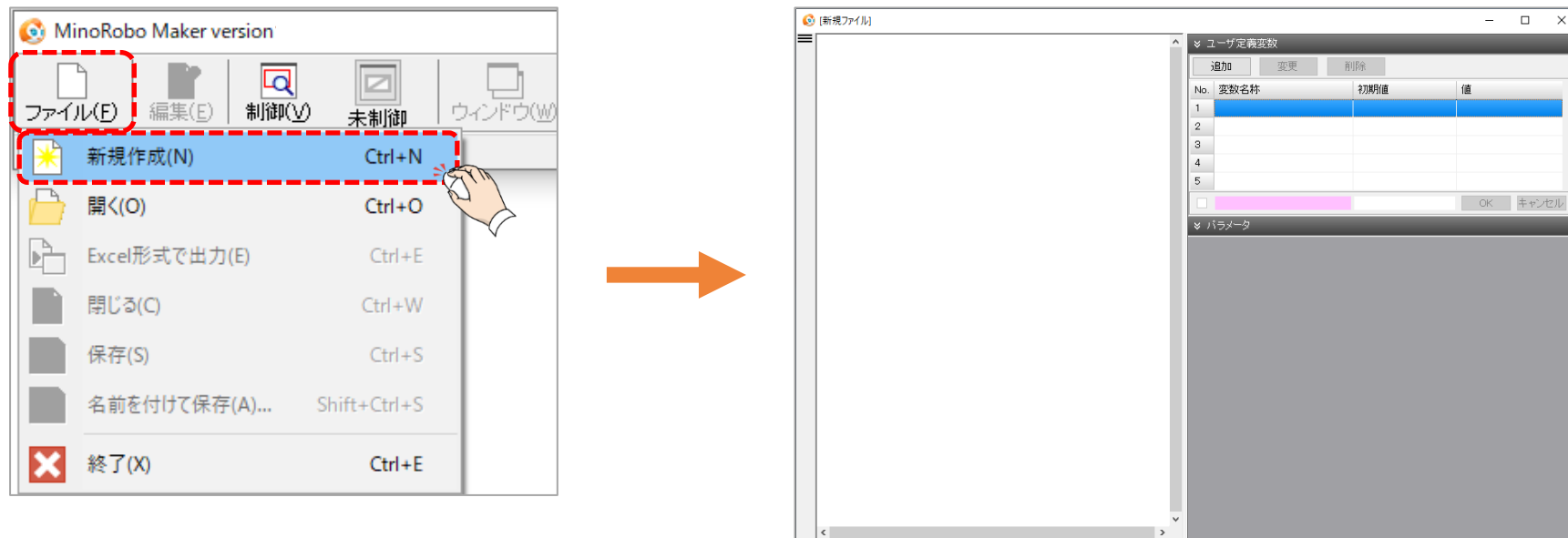
1. 事前準備

◎ 本チュートリアルを開始する前の事前準備

(1) MinoRobo Makerを起動しておきます。

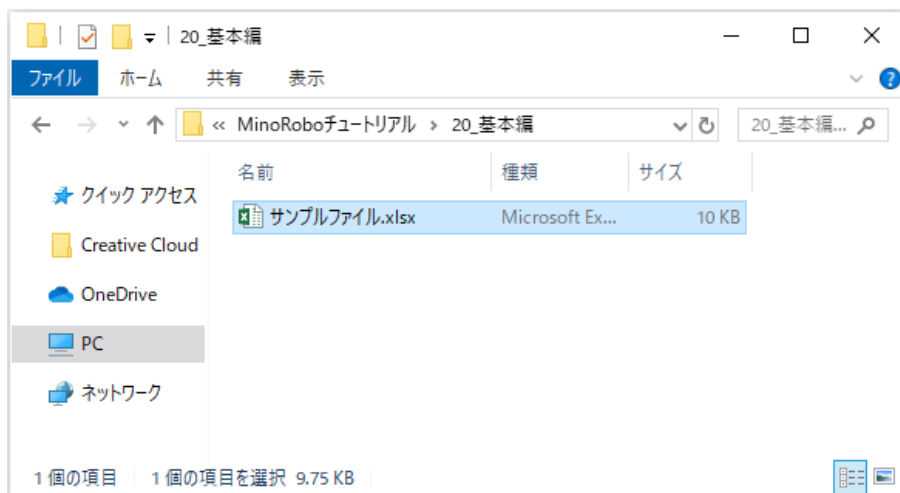


(2) 新規シナリオ作成画面を表示しておきます。



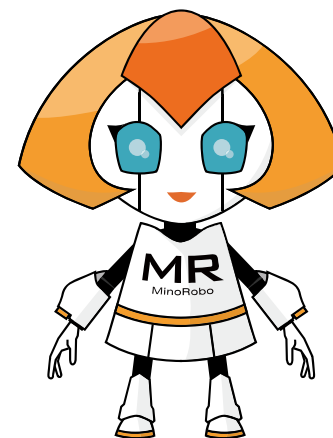
◎ 本チュートリアルを開始する前の事前準備

- (3) 本チュートリアルでは、同梱のExcelファイル（サンプルファイル.xlsx）を用いて操作を行います。
Excelファイルの保存先を確認しておいてください。



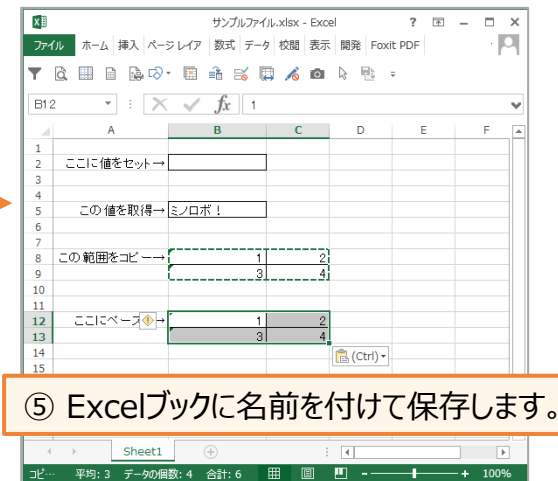
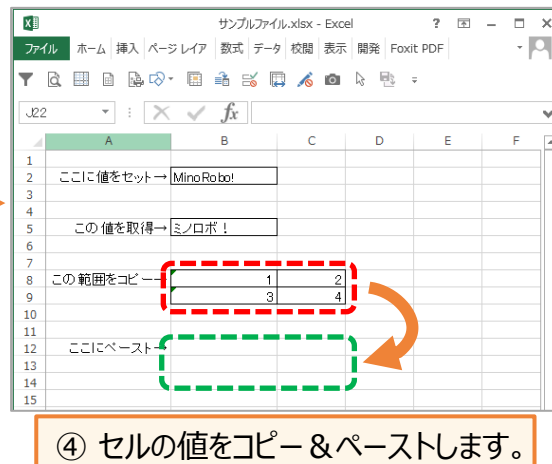
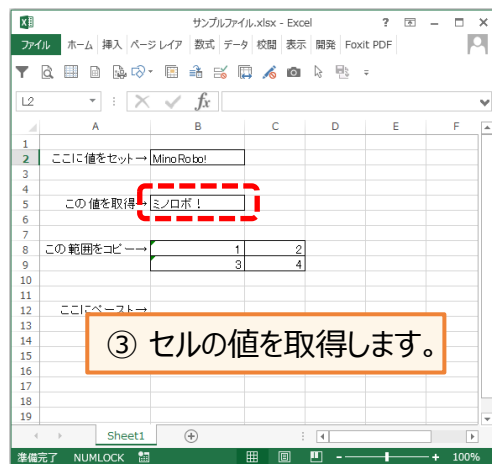
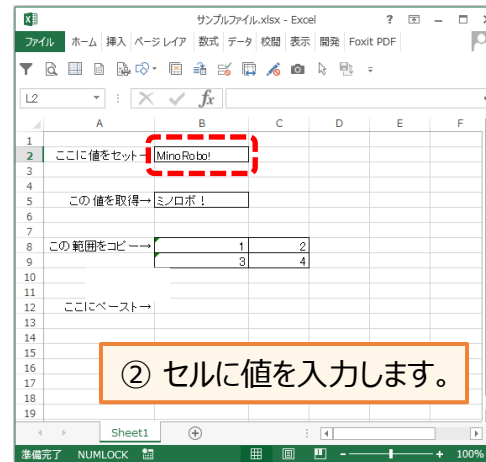
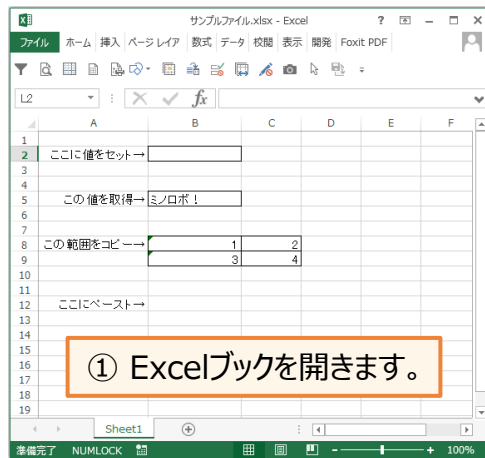
※本書では「C:¥MinoRoboチュートリアル¥20_基本編」に
ファイルが保存してある前提で記載しています。

2. Excelの操作を自動化してみよう



2. Excelの操作を自動化してみよう

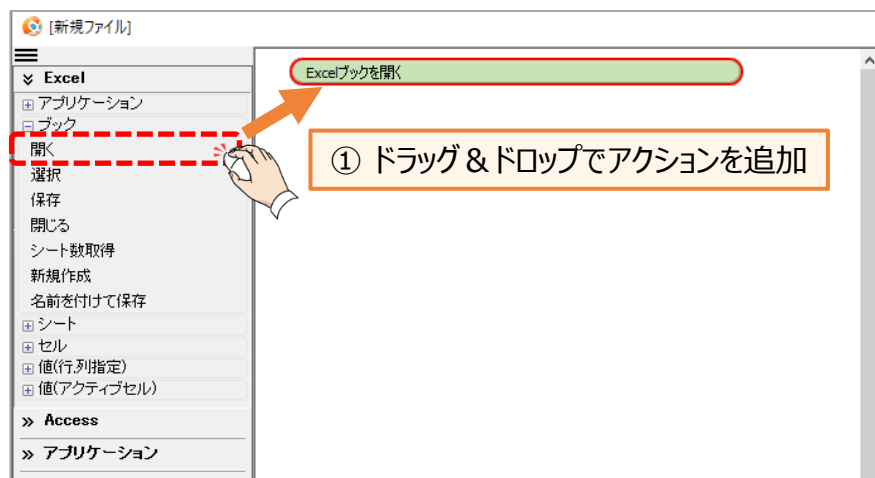
◎以降では、以下の流れを「Excel操作」を使用して自動化していきます。



2. Excelの操作を自動化してみよう

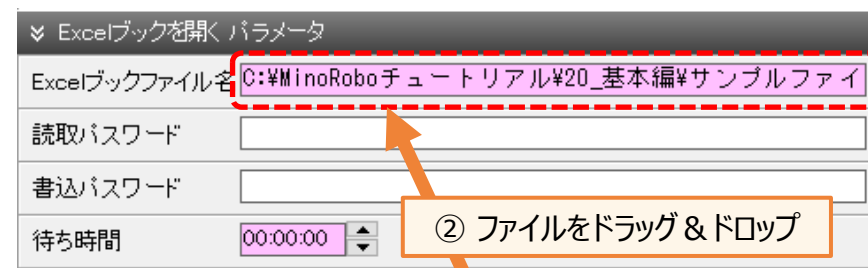
◎ Excelブックを開く -1

- ① アクション選択エリアの「Excel」→「ブック」→「開く」を選択し、実行順序エリアにドラッグ & ドロップします。



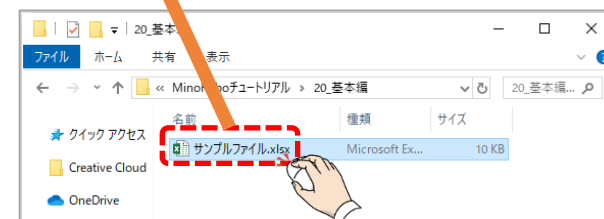
- ② パラメータエリアの「Excelブックファイル名」に開きたいExcelブックをドラッグ & ドロップしてファイルのフルパス（フォルダパス + ファイル名）を指定します。

※同梱のExcelファイル（サンプルファイル.xlsx）を指定します。



ポイント

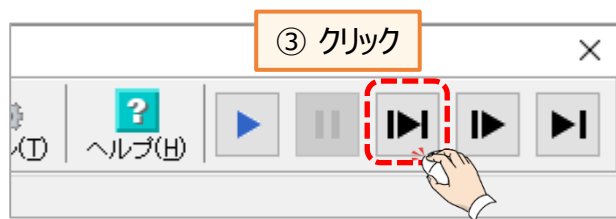
パラメータエリアの「Excelブックファイル名」にはフルパス（フォルダパス + ファイル名）を指定する必要があります。手入力の手間を省くために操作対象のExcelブックのファイルアイコンをドラッグ & ドロップするだけでパラメータの設定を可能にしています。



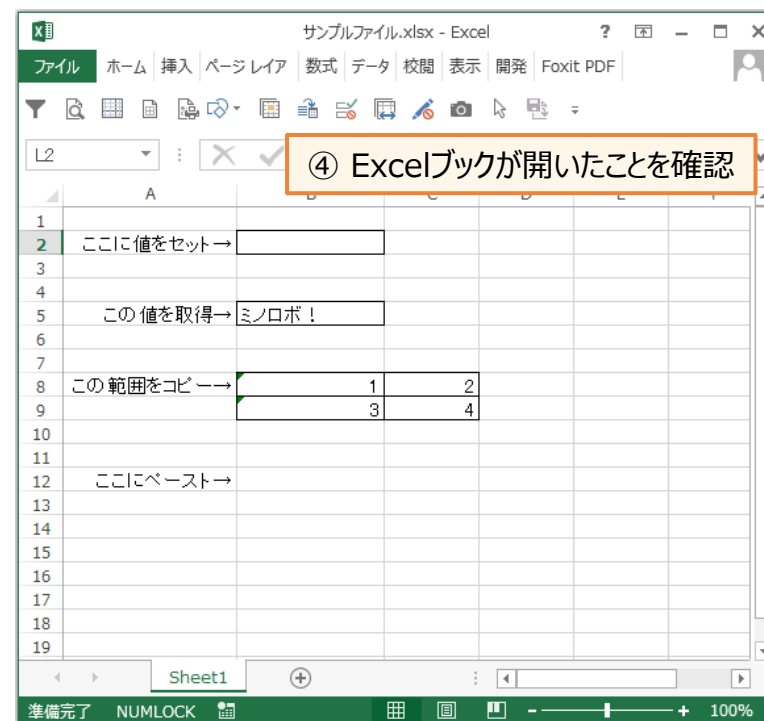
2. Excelの操作を自動化してみよう

◎ Excelブックを開く -2

- ③ メイン画面の「選択範囲のアクションを実行」をクリックしてアクションを実行します。



- ④ パラメータエリアに指定したExcelブックが開いたことを確認します。



便利なショートカットキー

シナリオ画面とメイン画面を切り替える操作は、以下のショートカットキーを活用することで簡単に操作できます。

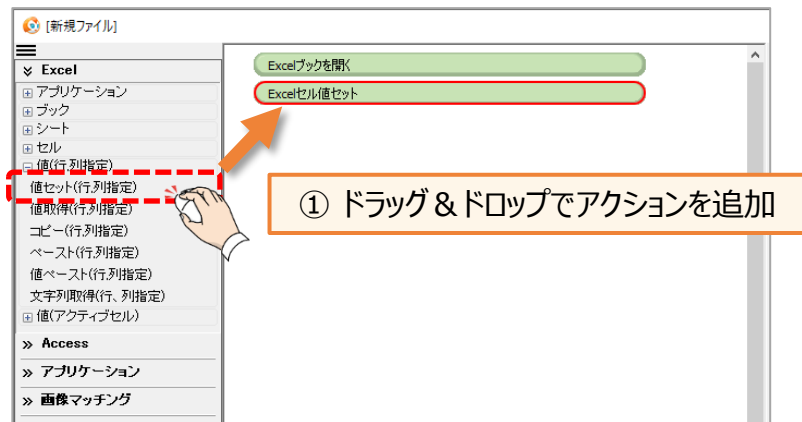
「Ctrl+Tab」・・・シナリオ画面とメイン画面を切り替える
「Ctrl+M」・・・メイン画面を前面に表示

ここで開いたExcelブックは以降の操作で使用するため、閉じずに開いたままにしておいてください。

2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルに値を入力する -1

- ① アクション選択エリアの「Excel」→
「値(行,列指定)」→「値セット(行,列指定)」を
選択し、実行順序エリアにドラッグ＆ドロップします。



- ② パラメータエリアの「列番号」「行番号」「設定値」に以下の
値を入力します。

「列番号」・・・B ※半角で指定します。

「行番号」・・・2 ※半角で指定します。

「設定値」・・・適当な値を入力

The screenshot shows the 'Excelセル値セット パラメータ' (Excel Cell Value Set Parameters) dialog box. It contains several input fields: 'ブック名' (Workbook Name), 'シート名' (Sheet Name), '列番号' (Column Number) with the value 'B', '行番号' (Row Number) with the value '2', '設定値' (Set Value) with the value 'MinoRobo!', and '待ち時間' (Waiting Time) with the value '00:00:00'. A red dashed box highlights the '列番号', '行番号', and '設定値' fields. A callout box with the text '② パラメータに値を入力' (Enter values in parameters) points to the '設定値' field.



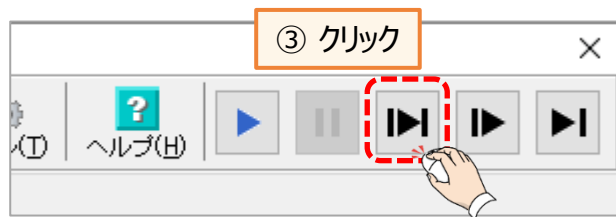
ポイント

パラメータエリアの「ブック名」「シート名」の指定は任意です。
ブック名、シート名が未入力の場合は、
アクティブなブック/シートに対してアクションが実行されます。
※他Excel関連のアクションでも同様です。

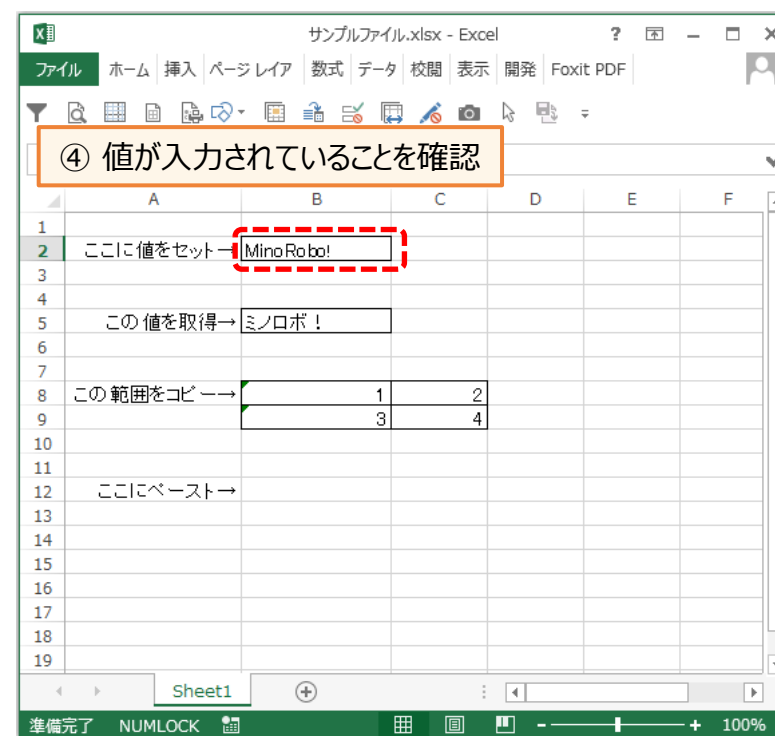
2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルに値を入力する -2

- ③ メイン画面の「選択範囲のアクションを実行」をクリックしてアクションを実行します。



- ④ 指定したセル位置に値が入力されていることを確認します。

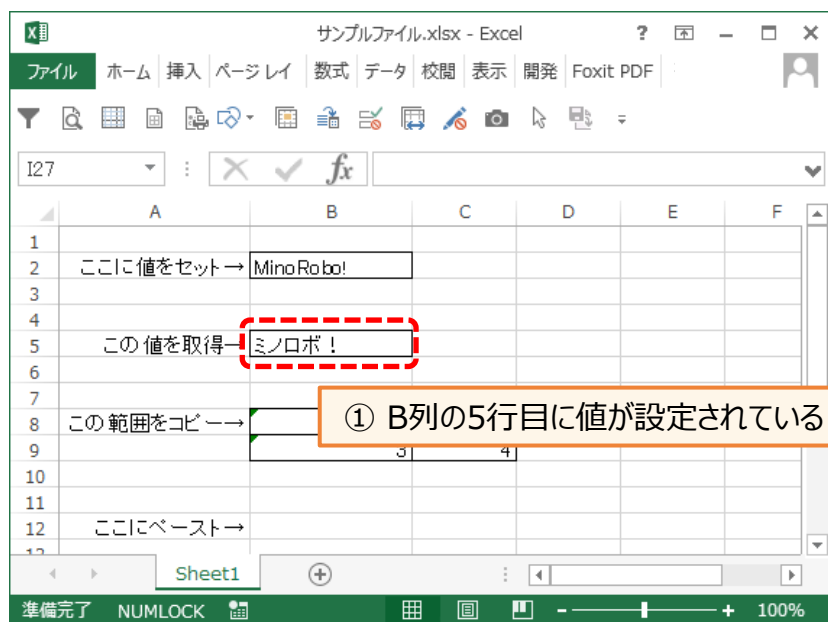


2. Excelの操作を自動化してみよう

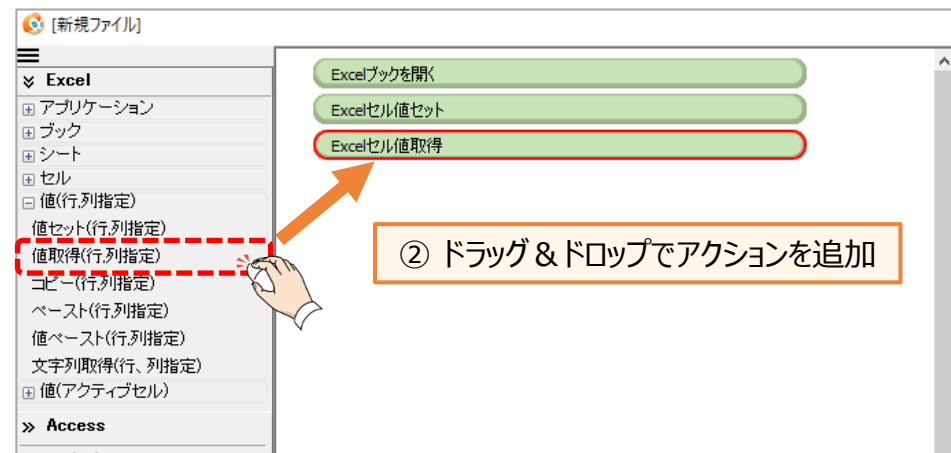
◎セルの値を取得する -1

① 取得する値が設定されているセルの位置を確認します。

※ここでは「B5」セルの値を取得していきます。



② アクション選択エリアの「Excel」→「値(行,列指定)」→「値取得(行,列指定)」を選択し、実行順序エリアにドラッグ&ドロップします。



2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの値を取得する -2

③ パラメータエリアの「列番号」「行番号」に以下の値を入力します。

※各値は半角で指定します。

※「取得先変数名」は④、⑤の手順で設定します。

「列番号」…B

「行番号」…5

Excelセル値取得 パラメータ	
ブック名	
シート名	
列番号	B
行番号	5
取得先変数名	
待ち時間	00:00:00



ポイント

パラメータエリアの「取得先変数名」には、Excelセルの値をシナリオ内で一時的に記憶しておくための入れ物（ユーザ定義変数）を指定します。

④ ユーザ定義変数を追加します。

「追加」をクリック

作成するユーザ定義変数の名前を指定して「OK」をクリック

④ ユーザ定義変数が追加されていることを確認

ユーザ定義変数			
追加 変更 削除			
No.	変数名	初期値	値
1	セルの値		
2			
3			
4			
5			

2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの値を取得する -3

- ⑤ 追加したユーザ定義変数をパラメータエリアの「取得先変数名」にドラッグ＆ドロップします。

ユーザ定義変数

追加 変更 削除

No.	変数名	初期値	値
1	セルの値		
2			
3			
4			
5			

☐ セルの値 OK キャンセル

Excelセル値取得 パラメータ

ブック名

シート名

列番号

行番号

取得先変数名

待ち時間



ユーザ定義変数

追加 変更 削除

No.	変数名	初期値	値
1	セルの値		
2			
3			
4			
5			

☐ セルの値 OK キャンセル

Excelセル値取得 パラメータ

ブック名

シート名

列番号

行番号

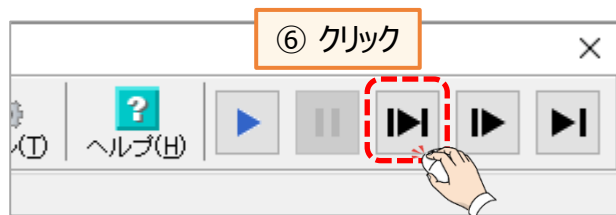
取得先変数名

待ち時間

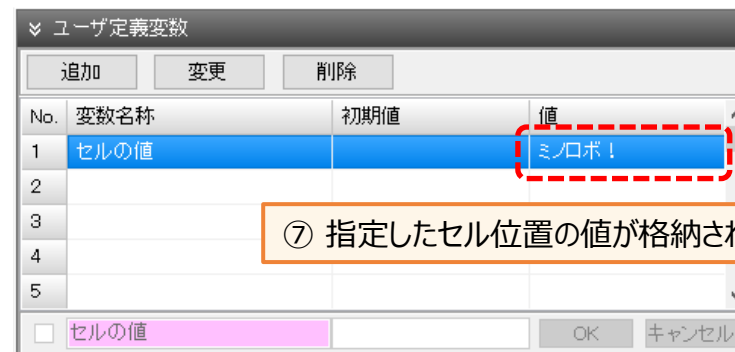
2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの値を取得する -4

- ⑥ メイン画面の「選択範囲のアクションを実行」をクリックしてアクションを実行します。



- ⑦ ユーザ定義変数に指定したセル位置の値が格納されたことを確認します。



ポイント

ユーザ定義変数に格納されている値は各アクションのパラメータエリア内で自由に利用することができます。
例えば、Excelから取得した値をWebページに転記する時は転記する値にユーザ定義変数を指定します。
他にもフォルダパスにユーザ定義変数を指定することで参照先フォルダを可変にすることができます。

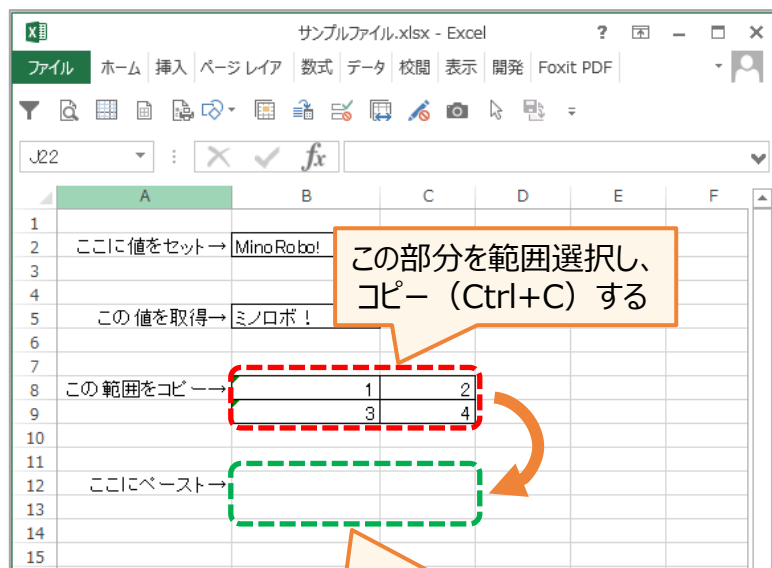
2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの範囲コピー／ペーストをする -1

【操作内容の説明】

以下の**赤枠**で囲った箇所を範囲コピーし、

緑枠で囲った箇所にペーストするまでの操作を登録します。

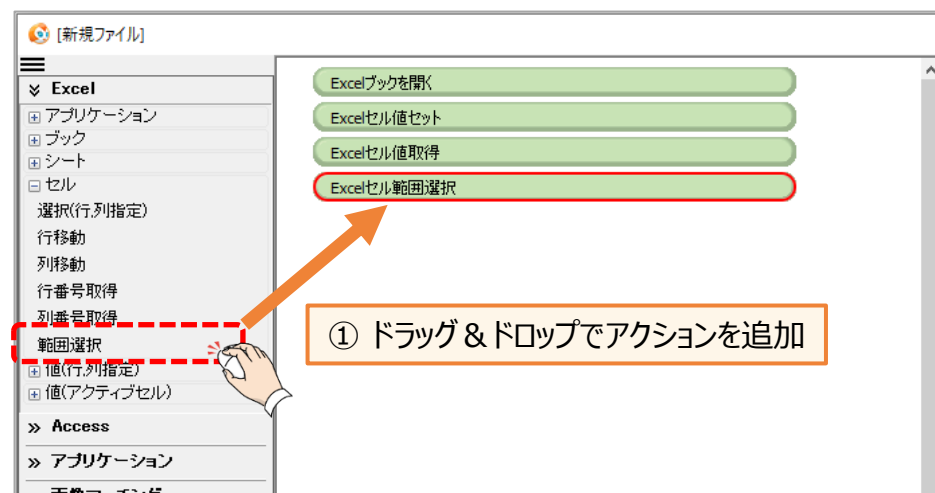


ポイント

MinoRoboにはキーボードの打鍵内容をアプリケーションに送信する機能があります。
コピー／ペーストの操作はショートカットキーを利用して実現していきます。

【アクション追加 1 : コピー対象セルを範囲選択する】

- ① アクション選択エリアから「Excel」→「セル」→「範囲選択」を選択し、実行順序エリアにドラッグ＆ドロップします。



2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの範囲コピー／ペーストをする -2

② パラメータエリアの「開始列番号」「開始行番号」「終了列番号」「終了行番号」に以下の値を入力します。

※各値は半角で指定します。

「開始列番号」…B

「開始行番号」…8

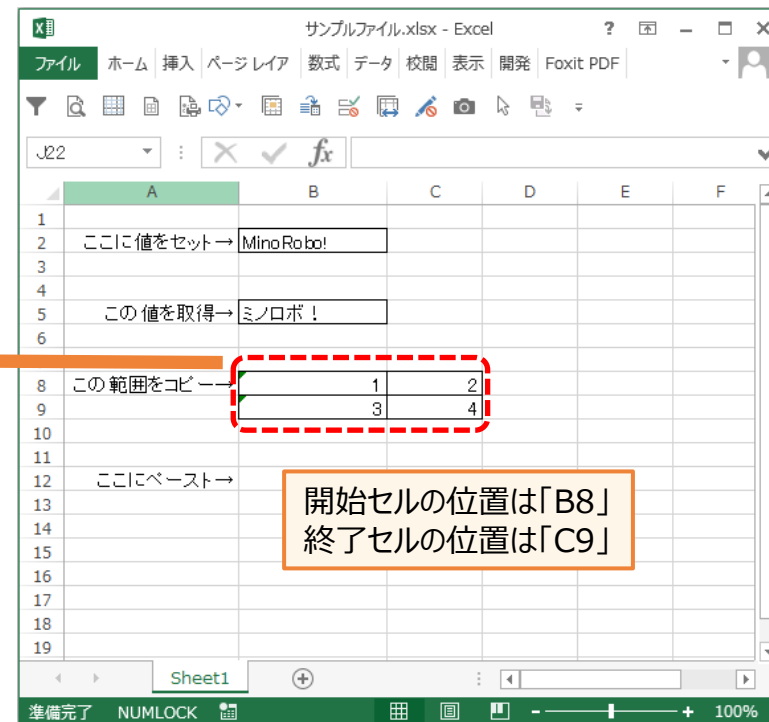
「終了列番号」…C

「終了行番号」…9

Excelセル範囲選択 パラメータ

ブック名	
シート名	
開始列番号	B
開始行番号	8
終了列番号	C
終了行番号	9
待ち時間	00:00:00

② 開始／終了のセル位置を指定

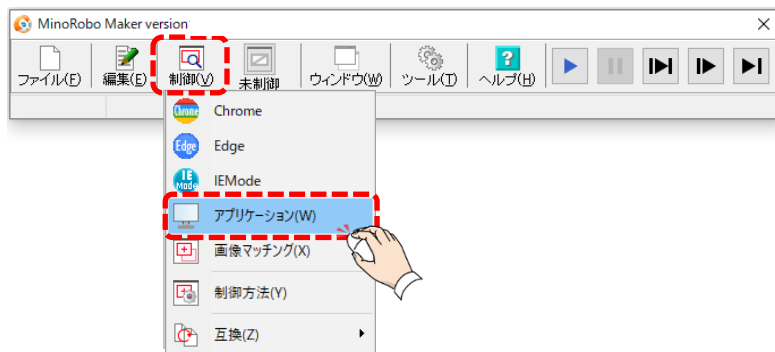


2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの範囲コピー／ペーストをする -3

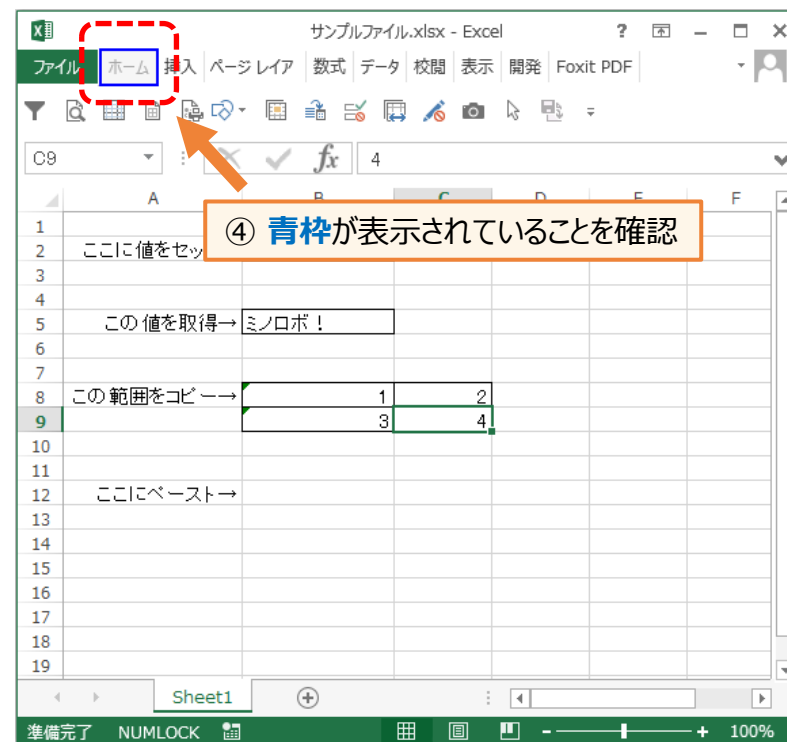
【アクション追加 2：選択中のセルの値をコピーする】

- ③ メイン画面の「制御(V)」→「アプリケーション(W)」を選択し、サンプルファイル.xlsxを選択します。



- ③ 「アプリケーション(W)」を選択して、Windowsアプリケーションの制御モードにする

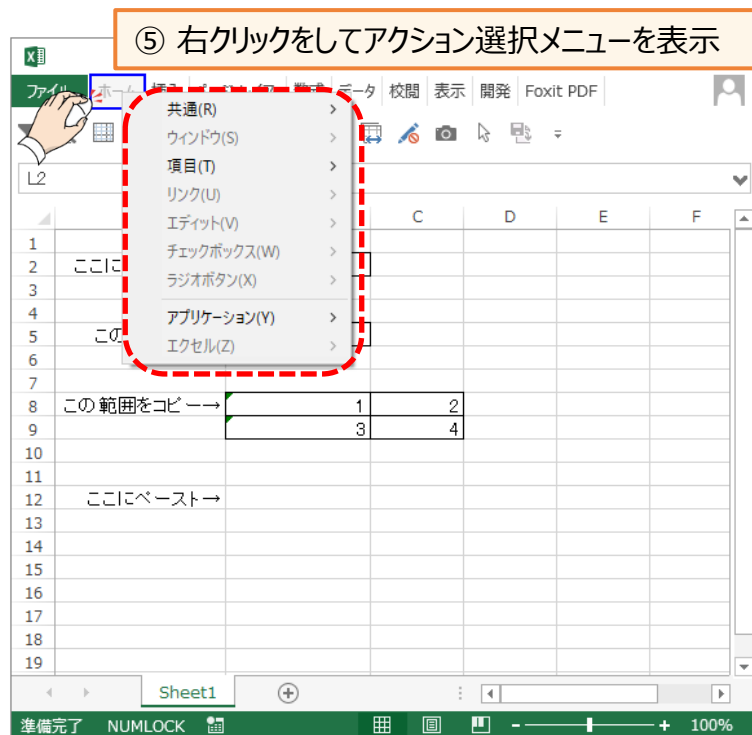
- ④ サンプルファイル.xlsxの画面の上にマウスカーソルを移動し、**青枠**が表示されることを確認します。



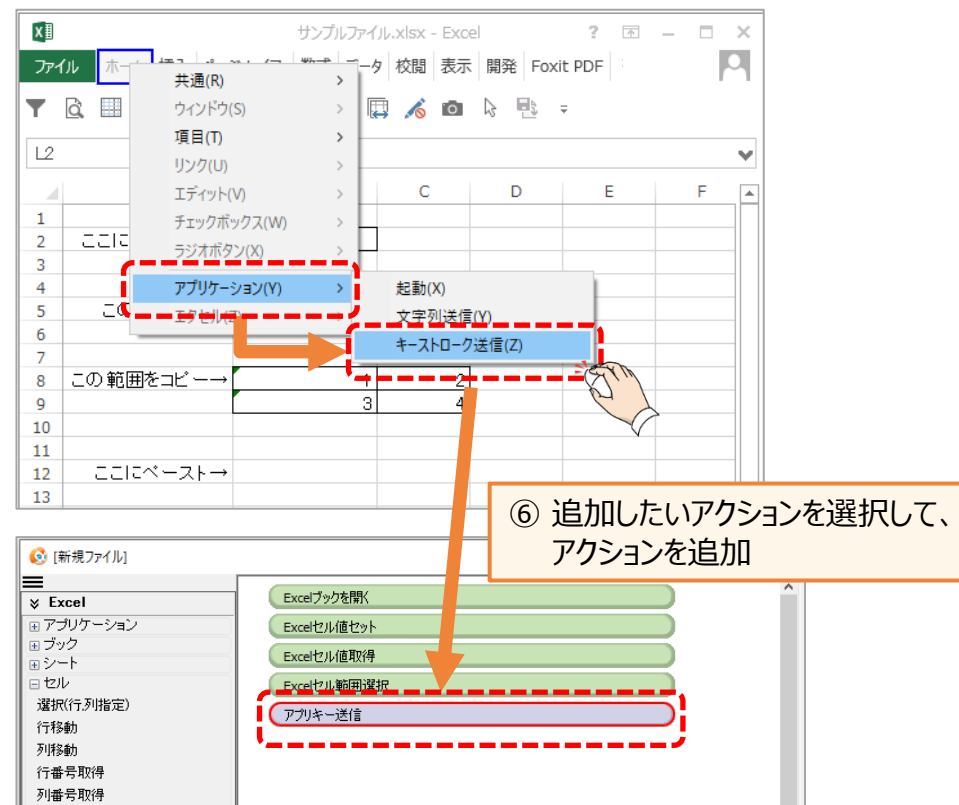
2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの範囲コピー／ペーストをする -4

- ⑤ 画面上に表示された**青枠**の上にマウスカーソルを置き、**青枠**内が白くなった状態で右クリックをしてアクション選択メニューを表示します。



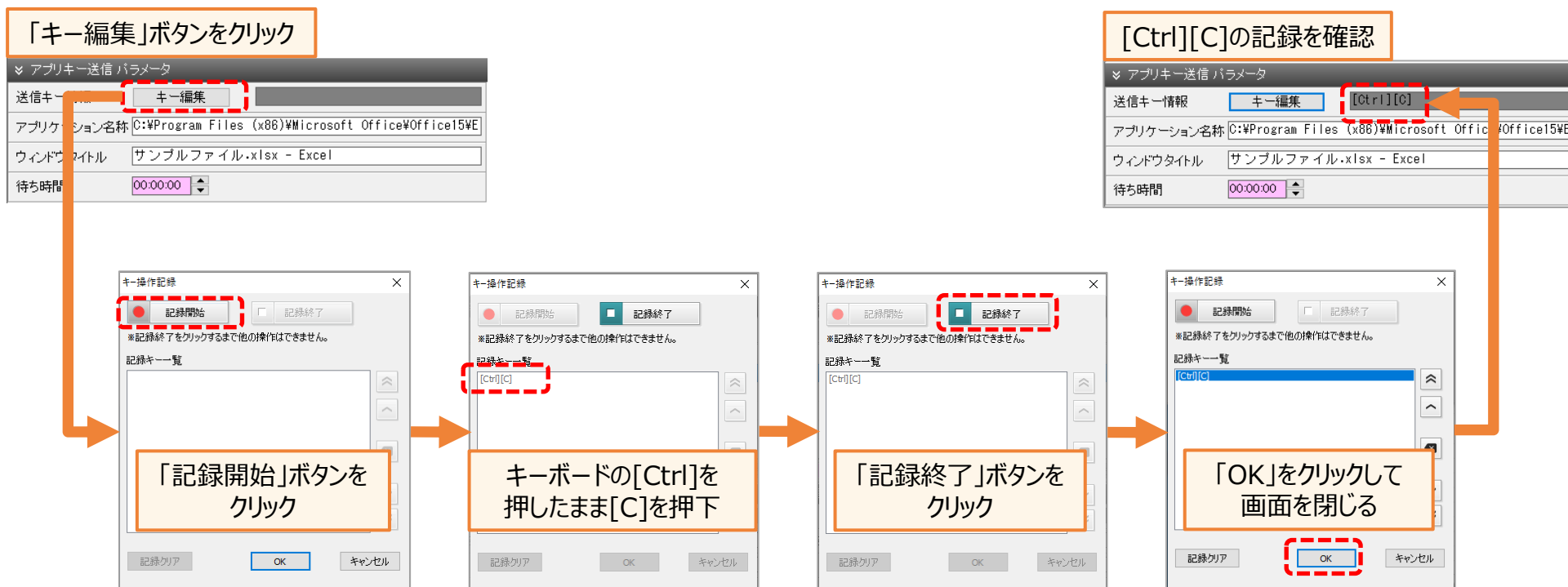
- ⑥ アクション選択メニューの「アプリケーション(Y)」→「キーストローク送信(Z)」を選択してアクションを追加します。



2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの範囲コピー／ペーストをする -5

⑦ パラメータエリアの「キー編集」ボタンをクリックして、Excelに送信するショートカットキー「Ctrl+C」を登録します。

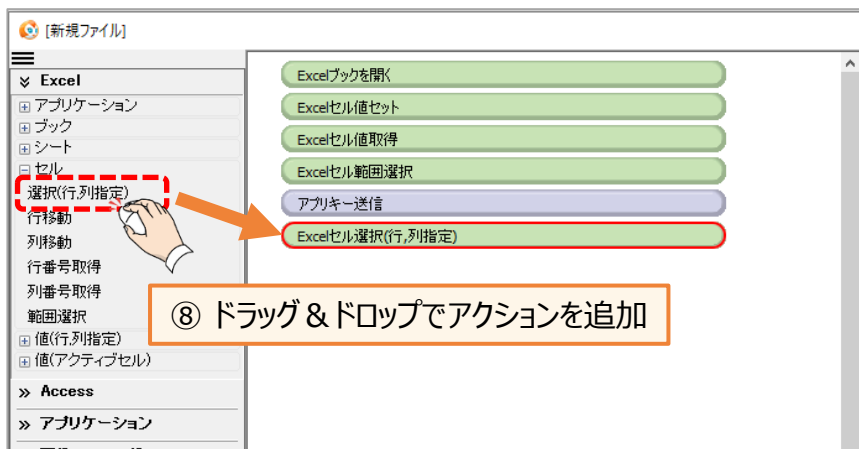


2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの範囲コピー／ペーストをする -6

【アクション追加3：ペースト先のセルを選択する】

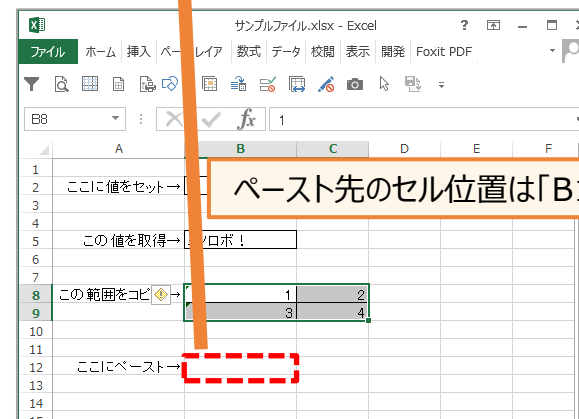
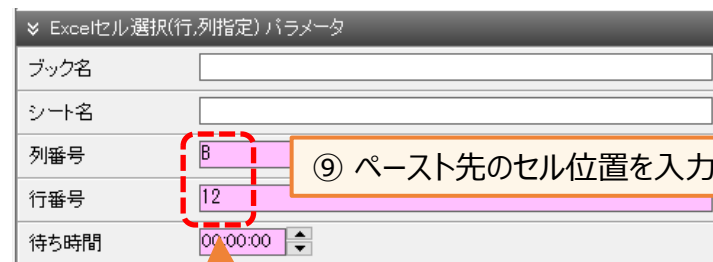
- ⑧ アクション選択エリアから「Excel」→「セル」→
「選択(行,列指定)」を選択し、実行順序エリアに
ドラッグ＆ドロップします。



- ⑨ パラメータエリアの「列番号」「行番号」に以下の値を入力します。
※各値は半角で指定します。

「列番号」・・・B

「行番号」・・・12

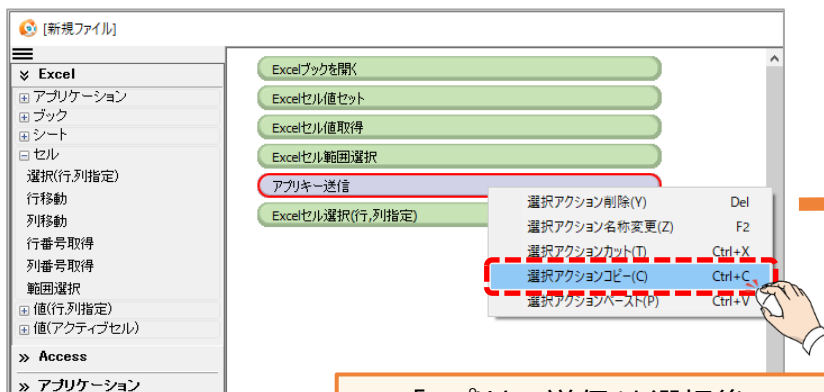


2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの範囲コピー／ペーストをする -7

【アクション追加 4 : コピーしたセルの値をペーストする】

⑩ 登録済みのアクション「アプリキー送信」を複製します。

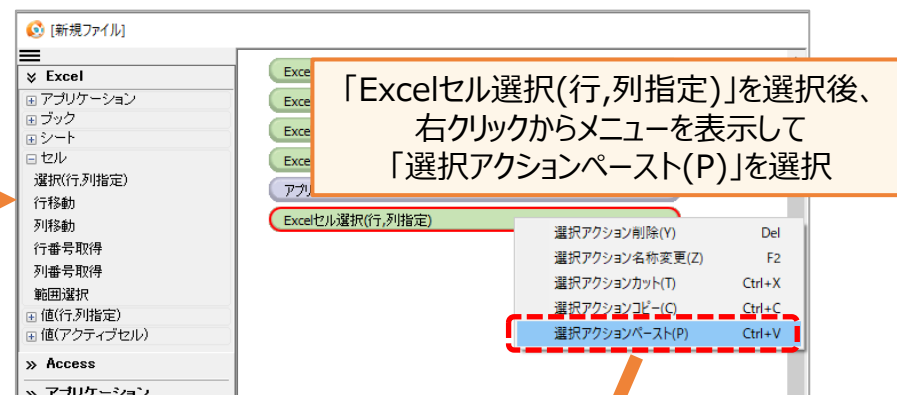


「アプリキー送信」を選択後、
右クリックからメニューを表示して
「選択アクションコピー(C)」を選択

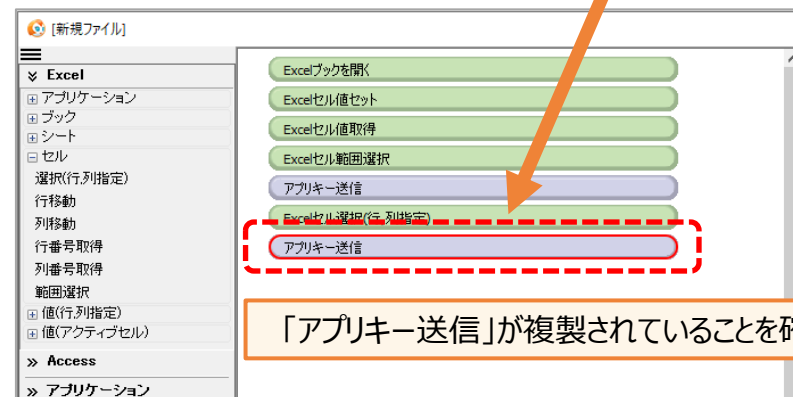


ポイント

選択アクションコピーはコピーしたいアクションを選択した後に「Ctrl + C」、
選択アクションペーストはコピーした後に「Ctrl + V」のショートカットキーを利用することでも同様の操作が可能です。



「Excelセル選択(行,列指定)」を選択後、
右クリックからメニューを表示して
「選択アクションペースト(P)」を選択



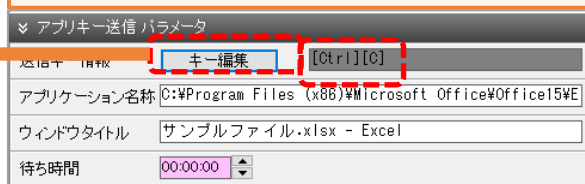
「アプリキー送信」が複製されていることを確認

2. Excelの操作を自動化してみよう

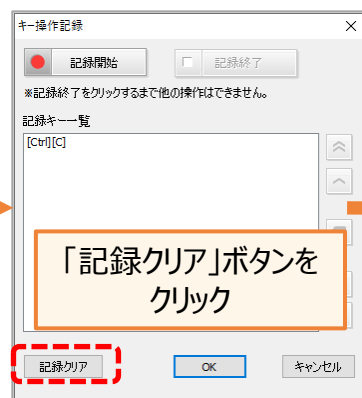
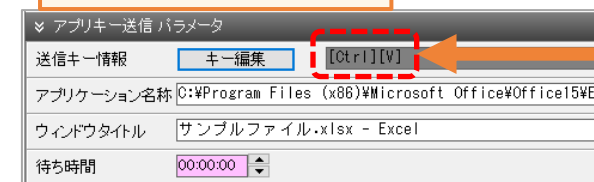
◎セルの範囲コピー／ペーストをする -8

- ⑪ 複製した「アプリキー送信」のパラメータエリアの「キー編集」ボタンをクリックして、Excelに送信するショートカットキー「Ctrl+V」を登録します。

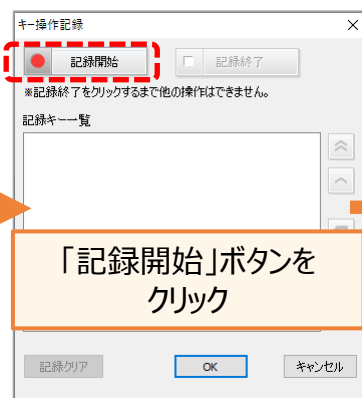
「キー編集」ボタンをクリック
※すでに登録されている[Ctrl][C]はクリアします。



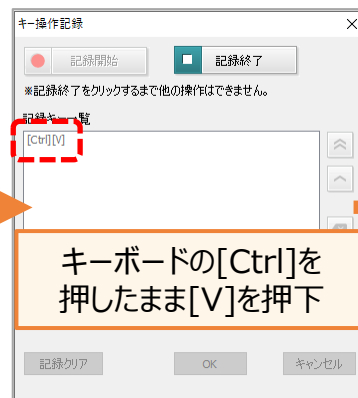
[Ctrl][V]の記録を確認



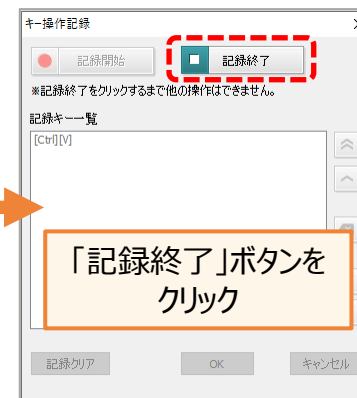
「記録クリア」ボタンを
クリック



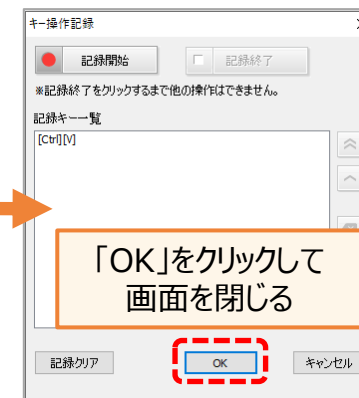
「記録開始」ボタンを
クリック



キーボードの[Ctrl]を
押したまま[V]を押下



「記録終了」ボタンを
クリック



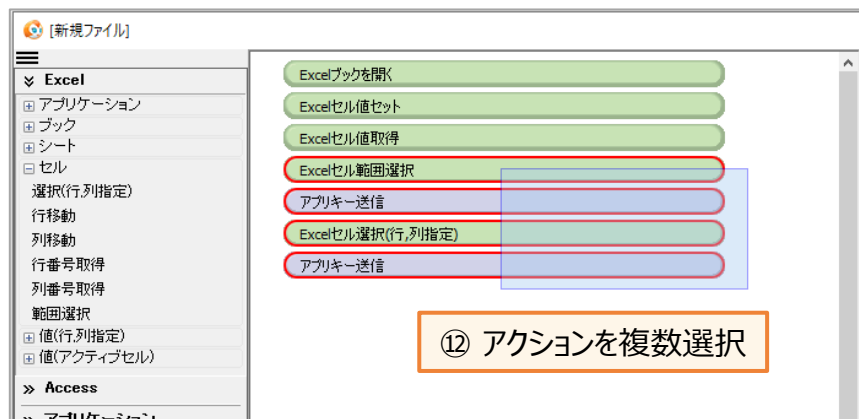
「OK」をクリックして
画面を閉じる

2. Excelの操作を自動化してみよう

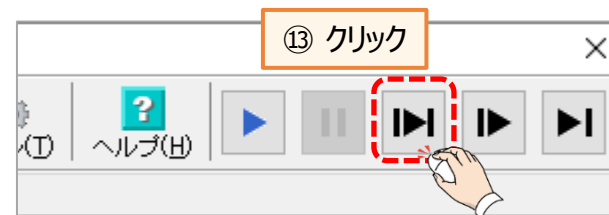
◎セルの範囲コピー／ペーストをする -9

【アクション実行：追加した4つのアクションを実行する】

- ⑫ 以下画像のようにマウスカursorをドラッグして
4つのアクションを選択した状態にします。



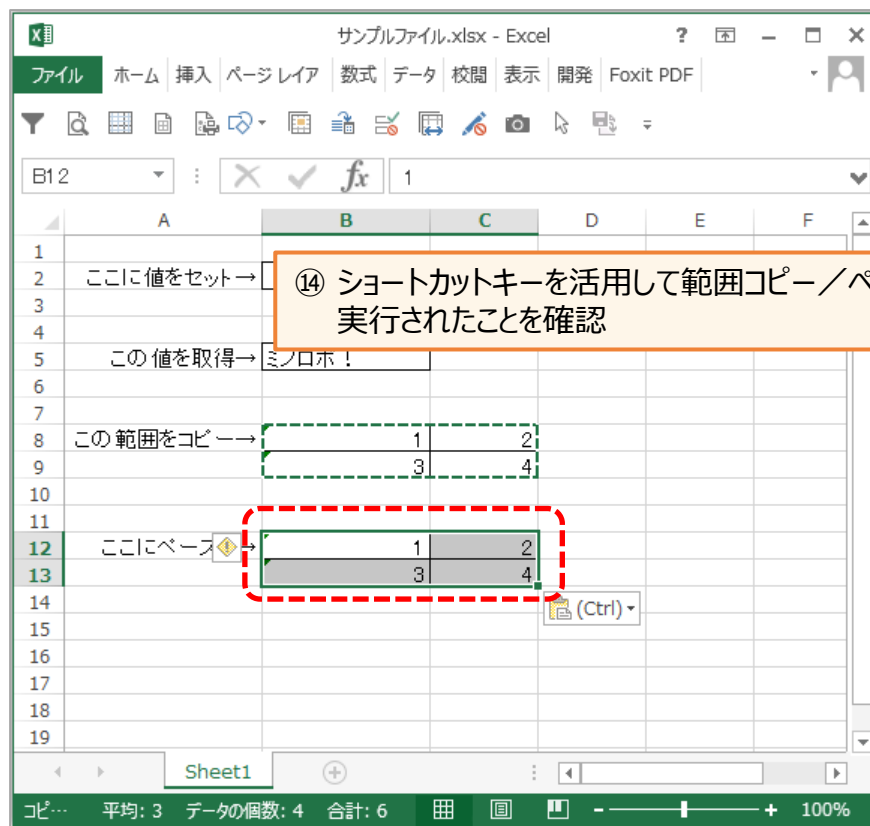
- ⑬ メイン画面の「選択範囲のアクションを実行」をクリックしてアクションを実行します。



2. Excelの操作を自動化してみよう

◎セルの範囲コピー／ペーストをする -10

⑭ セルの範囲コピー／ペーストが実行されていることを確認します。



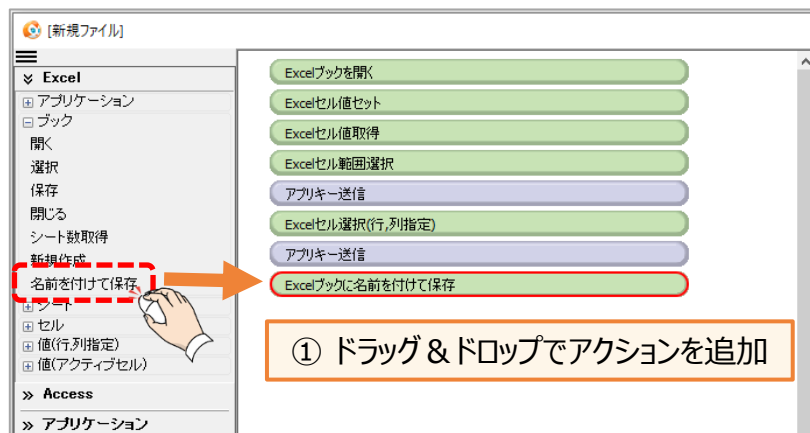
ポイント

アプリキー送信がうまくいかない場合は、
アプリキー送信の実行タイミングを遅らせることで正しく動作
する場合があります。実行タイミングの調整はパラメータエ
リアの「待ち時間」を設定することで可能です。
※「待ち時間」は各アクション毎に設定できます。

2. Excelの操作を自動化してみよう

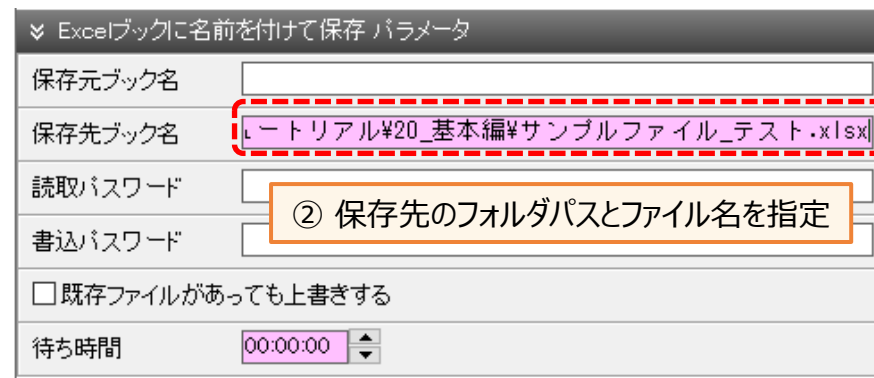
◎ Excelブックに名前を付けて保存する -1

- ① アクション選択エリアの「Excel」→「ブック」→「名前を付けて保存」を選択し、実行順序エリアにドラッグ＆ドロップします。



- ② パラメータエリアの「保存先ブック名」に保存先のフォルダパスとファイル名を指定します。

※以下の画像ではサンプルファイル.xlsxが保存されているフォルダに別ファイル名で保存するように指定しています。



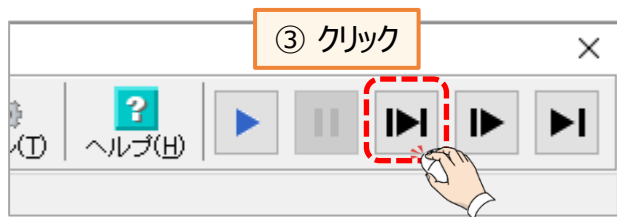
ポイント

パラメータエリアの「保存元ブック名」の指定は任意です。
未指定の場合はアクティブなブックに対してアクションが実行されます。

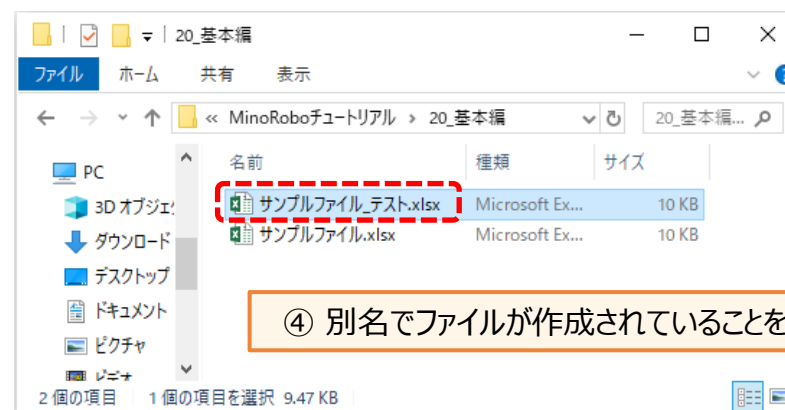
2. Excelの操作を自動化してみよう

◎ Excelブックに名前を付けて保存する -2

- ③ メイン画面の「選択範囲のアクションを実行」をクリックしてアクションを実行します。



- ④ パラメータエリアの「保存先ブック名」に指定したファイルが作成されていることを確認します。



以上で「～チュートリアル（基本編）～ Excelを操作してみよう」は終了です。

お疲れ様でした。

